

体系的な情報教育に向けた日本・韓国のカリキュラム比較研究

内桶誠二*¹ 本村猛能*² CHOON-SIG LEE *³ 角 和博*⁴ 森山 潤*⁵ 鬼藤明仁*⁶

<概要>

先行研究では、高校教科「情報」と大学情報教育の方向性について、2000年～2004年度にかけて複数校で実施した情報教育のカリキュラムとその学習内容について報告した。このとき、今後諸外国における評価項目、自己評価の観点にも注目する必要があることを確認した。

本研究は、我が国より15年程早く(1970年)から情報教育を導入している韓国の小学校・中学校・高等学校の教育を比較しながら、「認知、精神運動、情意」と「知識・理解、技能、興味・関心・態度」の各観点を主とする情報教育の教授と、カリキュラム編成の基礎情報を得ることを目的とした。具体的には、日本と韓国の中学校、高等学校の教科書で使用されている「情報」に関する類似キーワードを抽出し、これを用いた調査票により両国の学習内容を構造化し、今後の情報教育の在り方を検証しようというものである。

筆者らの提案するカリキュラム開発は、「情報に関する理解力(知識)と技能(実学)」を前提として、情報教育の体系的な教育内容の構造化の方向性を図ることにある。

<キーワード> 情報教育、教科「情報」、カリキュラム、理解力、技能

1. はじめに

高等学校に教科「情報」が設置され、平成17年度は全面的に展開されると考えられる。また、大学の情報教育についても、義務教育段階と高校教育の繋がりを考慮して、再確認する必要があると考える。筆者等は先行研究で、早くから情報関係の授業を行っている専門高校生の実態と、大学の情報関係の教育を比較検討した。

その結果、高校・大学では情報モラルを重視した内容が、大学は「知識」あるいは「情報に関する技能」に関する内容を検討する必要がある、その自己評価平均値は高校では次第に高くなるが、大学では逆に低くなる傾向が明らかとなった。

そこで筆者らは、この結果を考慮し、体系的な情報教育の方向性を探るため、中学・高校・大学の情報教育の連携の中で、「精神運動、認知、情意」の各領域と、そこに包含される「技能、

知識・理解、態度」の関係について調査することとした。なお、日本と韓国の評価方法と学習者の実態について比較検討するため、表1にある教科書等の事前調査を行い、情報教育の体系化を試行していく。

2. 調査・分析の前提

評価項目は、ブルームらの教育目標の分類による精神運動領域、認知領域、情意領域であり、これを基本形とした。

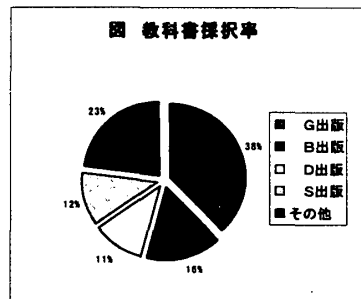
ー調査の前提ー

調査対象は、日本では中学・専門高校・大学生を、韓国ではソウル市内の中学・高校生とする。まず日本では、中学の技術・家庭科「情報とコンピュータ」の履修生徒を、高校では「情報技術基礎」「情報処理」等を、大学では共通教育「情報処理」等を履修している生徒・学生を対象とする。

表1. 高校教科「情報A」の採択状況

	発 行 者	占 有 率	
		H15	H16
1	G出版	37%	38%
2	B出版	18%	16%
3	D出版	13%	11%
4	S出版	11%	12%

図 教科書採択率



*1 UCHIOKE Seiji : 流通経済大学

*2 MOTOMURA Takenori : 川村学園女子大学

*3 CHOON-SIG LEE : KICE(韓国カリキュラム評価研究所)

*4 SUMI Kazuhiro : 佐賀大学文化教育学部

*5 MORIYAMA Jun : 兵庫教育大学 (院生 : *6 KITOU Akihito)

e-mail = uchioke@rku.ac.jp

e-mail = motomura@ka2.koalanet.ne.jp

e-mail = choonsig@kice.re.kr

e-mail = ysumik@cc.saga-u.ac.jp

e-mail = junmori@life.hyogo-u.ac.jp

一方、韓国では、表2に示すように中学・高校共に「情報社会とコンピュータ」「コンピュータ一般」等が必修で行われているので、無作為抽出校とする。

ここで、日本の場合、現在高校で履修されている教科「情報」は、表1の4社で全

体の7割になる。そこで、これらの教科書を中心として、そこに用いられている言葉（キーワード）から評価項目を作成する。

これと韓国の情報教育とを照合し、共通評価項目を作成する。表3に4社に共通する言葉の一部をあげる。

表2. Curriculum and Contents of Computer - Korea (一部抜粋)

	grade	Technology	Computer
Middle school	1st	-Components of computer -Basic principles of computer -Information making, storing, and distribution	-Human and computer(h/w, s/w) -Basic of computer(operating, utility program) -Word processing
	2nd	-Using of software -Using of internet	-PC communication and Internet -Multimedia
	3rd		
High School	1st		-PC Communication/Internet
	2nd		-Information and society
	3rd		-Components of computer system -Expression of data -Role of Operating System -Windows -Word processing -Editing of W/P -Making a table in W/P -Spread shee -Multimedia etc.

表3. 教科「情報」に共通する言葉

・問題解決（解決方法）	・コンピュータ
・情報通信ネットワーク	・工夫
・実習	・仕組み
・理解	・特性
・活用（活用能力）	・デジタル化
・プレゼンテーション	・利用技術
・情報社会	・信頼性（安全性）

3. 調査・分析方法

体系的情報教育について、1996年坂元等の提起した「情報に関する理解力と技能」の観点で、情報活用（ICT）の実践力や問題解決、あるいは技能といった内容で、日本・韓国両国の比較・分析を行う。

両国の学齢段階と地域性について、例えば「自己評価項目平均値は高校では次第に高くなるが、大学では逆に低くなる傾向にある」ことが韓国でも存するかである。

分析方法は、先報の調査項目分類と、両国に共通の情報関係用語をもとに調査項目を作成し、その回答結果を、クラスター・因子分析等により検討していく。

これらにより、両国の生徒・学生の中で知識の構造化がどのようになっているのか、また、各学校段階の課題など、今後の体系的な情報教育の在り方について調査・分析していく。

4. まとめ

本研究は、「体系的な情報教育」について、日本と韓国両者のカリキュラムを検討していくものである。

一方、情報教育の知識・理解・技能の定義と明確な評価法についても今後の研究と実践を予定している。

また、先進的に進められている韓国の情報教育とその問題点についても配慮し、小・中・高での情報教育を考えていきたい。

※本研究は平成15,16年度科学研究費基盤研究(C)(1) [15530600]『教師教授と生徒の学習活動の関心に視点を置いた教科「情報」のカリキュラム開発』の助成を受けて進めている。

【参考文献】

- 1) KICE(編) : The School Curriculum of the Republic of KOREA, 2004